

大阪湾再生行動計画の実施状況について



平成19年1月26日 大阪湾再生推進会議

大阪湾再生行動計画

- 京阪神都市圏を含む広い範囲の集水域を抱え、その一方で閉鎖性海域であり、水環境改善に向けた課題が多く残されている大阪湾において、都市再生本部で決定された都市再生プロジェクトである「海の再生」を推進するため、大阪湾再生推進会議が平成16年3月26日に策定したもの

大阪湾再生に向けての目標

森・川・海のネットワークを通じて、
美しく親しみやすい
豊かな「魚庭(なにわ)の海」を回復し、
京阪神都市圏として
市民が誇りうる「大阪湾」を創出する

具体的な目標及び指標

具体的な目標	指標
年間を通して底生生物が生息できる水質レベルを確保する	底層DO(溶存酸素量) ・5mg/L以上(当面は3mg/L以上)
海域生物の生息に重要な場を再生する	干潟・藻場・浅場等の面積 砂浜・磯浜等の延長
人々の親水活動に適した水質レベルを確保する	表層COD・散策、展望:5mg/L以下 ・潮干狩り:3mg/L以下 ・海水浴:2mg/L以下 ・ダイビング:1mg/L以下
人々が快適に海にふれ合える場を再生する	自然的な海岸線延長
臨海部での人々の憩いの場を確保する	臨海部における海に面した緑地の面積
ごみのない美しい海岸線・海域を確保する	浮遊ごみ、漂着ごみ、海底ごみ

重点エリア

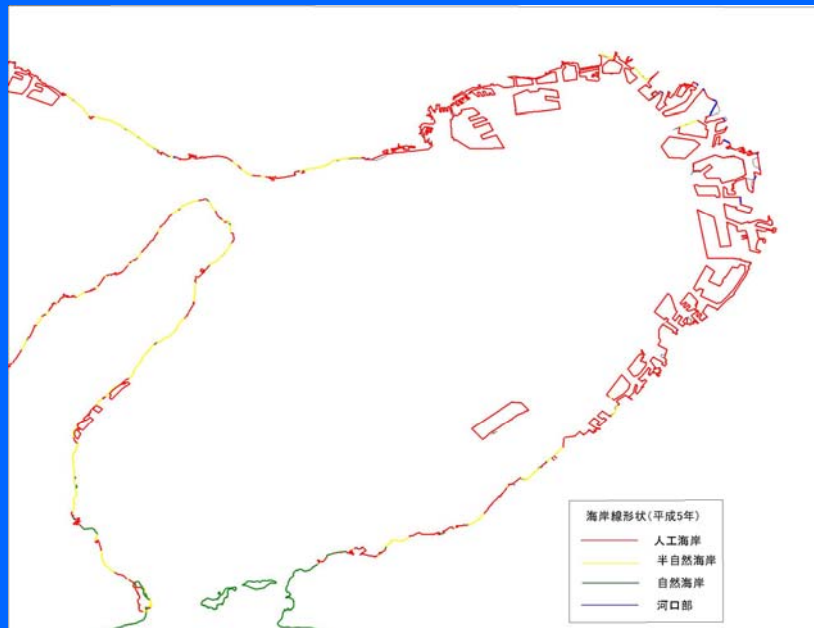
- ◆ 目標達成は大阪湾と集水域全体での取り組みが必要
- ◆ そのうち、再生への課題が多く、かつ改善する点が多い湾奥部「概ね神戸市須磨区～大阪府貝塚市」を「重点エリア」と設定



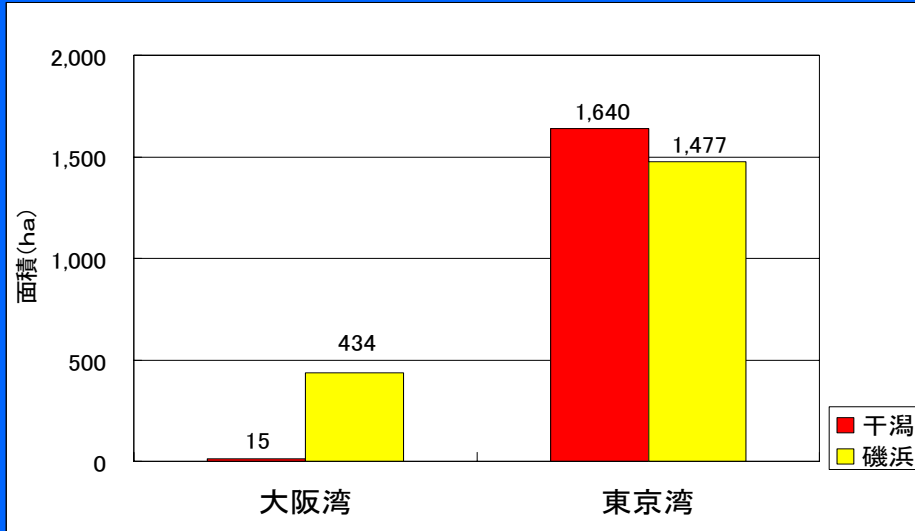
計画期間

- ◆ 平成16年度から10年間を計画期間とする

大阪湾の海岸線の状況

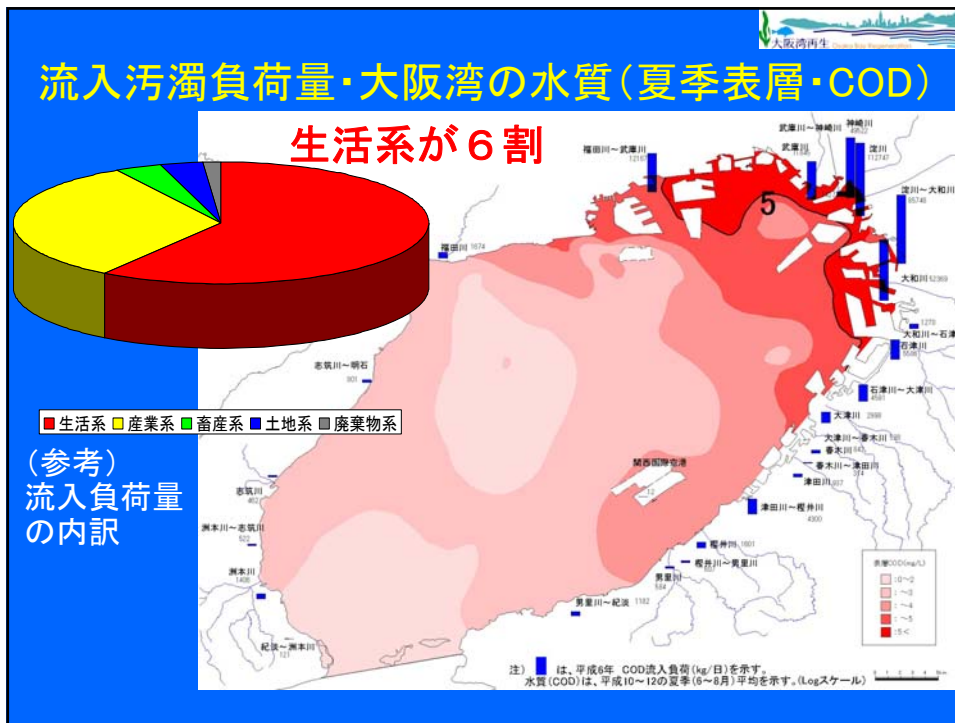


大阪湾は東京湾より干潟・磯浜が少ない



大阪湾の集水域








大阪湾再生行動計画の内容 ～陸域負荷削減施策の推進～

- ◆ 水質総量規制等
- ◆ 下水道事業など
 - ・高度処理化、合流改善など
- ◆ 河川浄化事業、森林整備事業など
 - ・河川浄化施設、浄化浚渫、河口干潟など
- ◆ 市民と連携で清掃活動



瀬と淵浄化施設(大和川下流部)



近木川河口干潟



武庫川下流浄化センター

大阪湾再生行動計画の内容 ～海域での環境改善対策の推進～

- ◆ 水質の改善
- ◆ 多様な生物の生息・生育
 - ・人工干潟の整備など
- ◆ 親水性の向上
 - ・海辺の緑地、砂浜や磯浜の整備
- ◆ 浮遊・漂着・海底ごみの削減

人工干潟(阪南2区)



海洋環境整備船



大阪湾再生行動計画の内容 ～大阪湾再生のためのモニタリング～

- ◆ 環境監視、環境改善効果把握など
 - ・関係機関の連携、底生生物モニタリング、環境調査が実施できる海洋環境整備船の整備 など
- ◆ 汚濁機構の解明
 - ・貧酸素水塊調査の充実、水質シミュレーションモデルの開発 など
- ◆ 情報の共有化及び発信
 - ・大阪湾環境データベース、市民にわかりやすい発信



大阪湾再生推進会議の構成 ①

- ・内閣官房：都市再生本部事務局
- ・国土交通省：近畿地方整備局
海上保安庁第五管区海上保安本部
- ・農林水産省：近畿農政局
林野庁近畿中国森林管理局
水産庁（漁港漁場整備部）
- ・経済産業省：近畿経済産業局
- ・環境省：水・大気環境局
- ・滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、
和歌山県、京都市、大阪市、堺市、神戸市
- ・(財)大阪湾ベイエリア開発推進機構

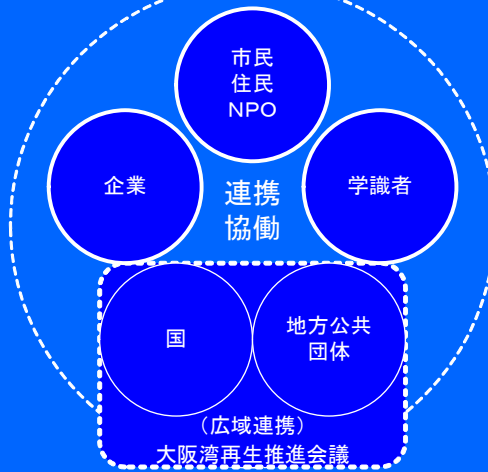


大阪湾再生推進会議の構成 ②

- ・大阪湾再生推進会議のもと、幹事会および
ワーキンググループを設置。
→ WG：全体グループ、陸域グループ、
海域グループ、モニタリンググループ

※ 事務局は、近畿地方整備局。
大阪府および(財)大阪湾ベイエリア開発推進機構が運営協力

推進体制図(イメージ)

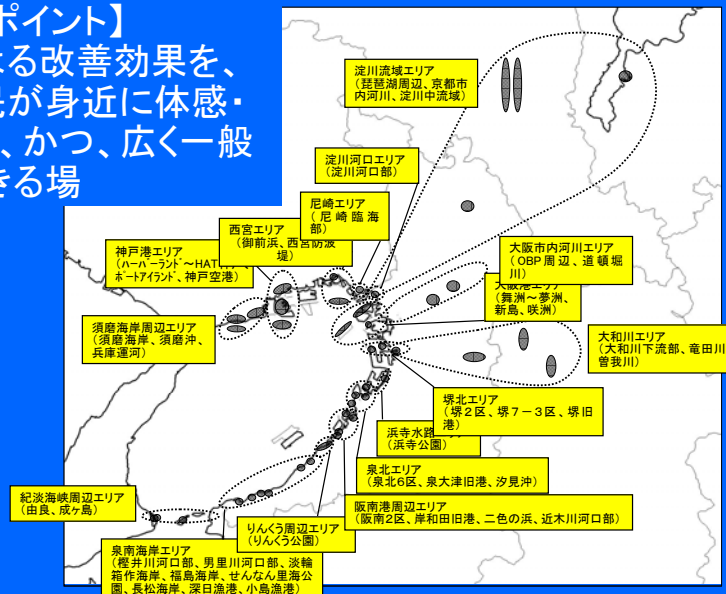


- 大阪湾再生推進会議とあわせて、市民・住民・学識者、企業との連携と協働による推進体制づくりを進めながら、大阪湾再生の着実な推進に努める。

大阪湾再生行動計画のアピールポイント

【アピールポイント】

→施策による改善効果を、一般市民が身近に体感・実感でき、かつ、広く一般にPRできる場



【アピールポイントの例】：尼崎エリア



[現況]

- 水質が悪く、工場跡地が低・未利用地化し、景観を阻害、人々が近づけない海辺

尼崎21世紀の森のイメージ
(尼崎の森中央緑地)



[改善後のイメージ]

- 緑豊かで快適に散策のできる海辺

平成18年度の取り組み事例

①行政機関による積極的な取り組み

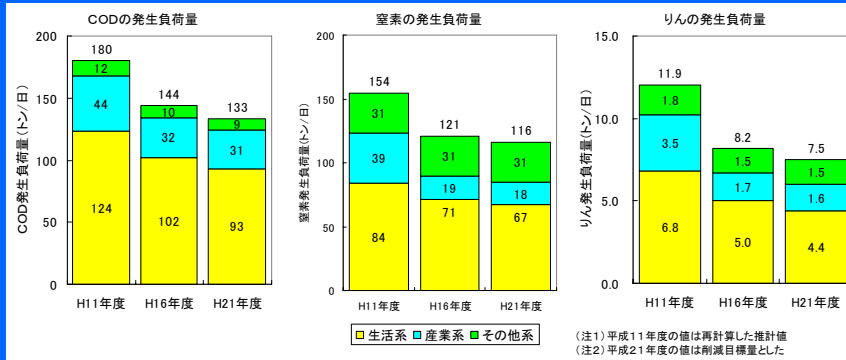
1. 水質の改善
2. 多様な生物の生息・生育場の再生
3. 親水性の向上
4. 浮遊・漂着・海底ごみの削減
5. 大阪湾再生のためのモニタリング

1. 水質の改善

■水質総量規制制度に基づく総量削減

【平成18年度の主な取り組み】

- 平成21年度を目標年度とする総量削減基本方針（第6次）を策定

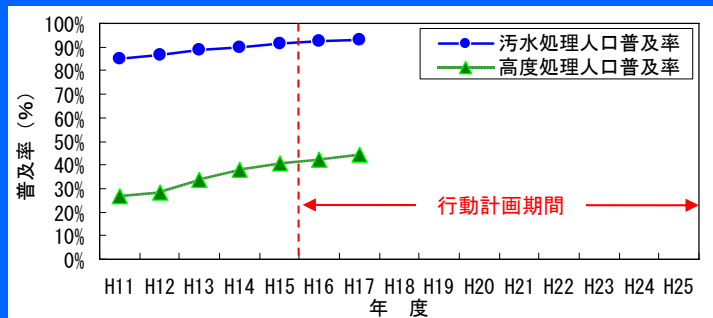


大阪湾における汚濁負荷量の推移及び削減目標量

■下水処理場からの排出負荷量の削減

【平成18年度の主な取り組み】

- 新たな下水処理場の供用開始へ向けた整備を実施<継続>
- 既存の下水処理場を高度処理化<継続>
- 「合流式下水道緊急改善計画」に基づく合流式下水道の改善<継続>

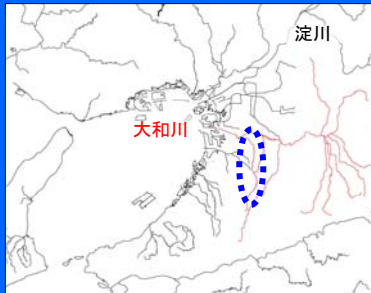


汚水処理人口普及率と高度処理人口普及率の変遷

■河川浄化1

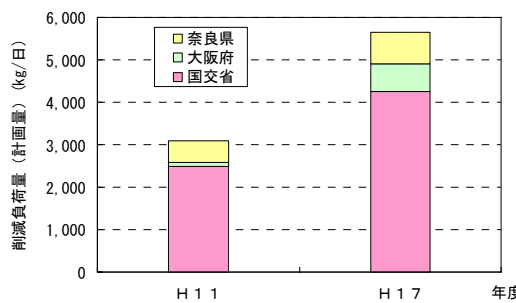
【平成18年度の主な取り組み】

- 大和川(東除川、西除川)、寝屋川、平野川、石津川、
櫻井川、及び琵琶湖などでの浄化事業<継続>



位置図(大和川)

【BOD削減負荷量(計画量)】



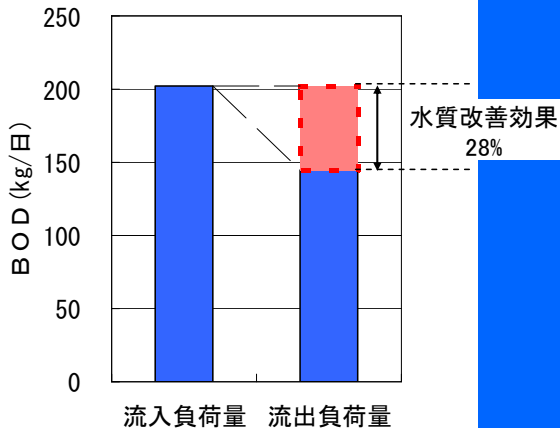
大和川水系における河川浄化施設による削減負荷量

西除川(大和川水系) 薄層流浄化施設での削減負荷量



薄層流浄化施設(東除川)

【西除川 薄層流区間 L=2.8km】



西除川(大和川水系) 薄層流浄化施設の水質改善効果

■河川浄化2

【平成18年度の主な取り組み】

- 近木川河口干潟の造成<継続>



近木川河口干潟のイメージ

■流域の森林整備

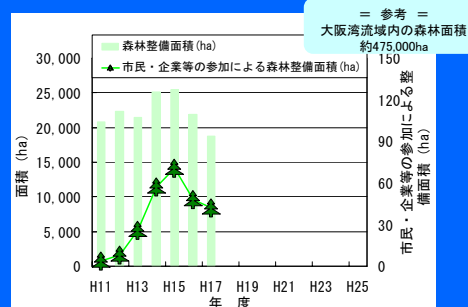
【平成18年度の主な取り組み】

- 箕面市の箕面国有林における都市型の「里山整備モデル林」での植生調査、「国有林における里山再生ガイドライン」の作成<継続>
- 公共工事での間伐材等の木材利用<継続>
- 森づくりへの企業参加を促すための「アドプトフォレスト制度」の推進<継続>

アドプトフォレスト制度による森づくり活動



<http://www.pref.osaka.jp/midori/adopt-forest/sharp/sharp-mori.html>



■ 雨水流出の抑制

【平成18年度の主な取り組み】

- 雨水流出抑制対策としての浸透側溝の整備
＜継続＞

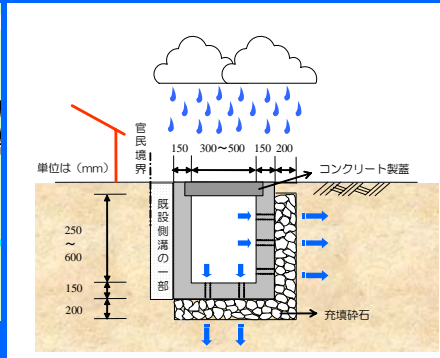
良好な水循環の維持・回復のための地下水の涵養を図る

ために

道路排水や隣接する家屋からの雨水を集水する



浸透側溝の設置場所
(有栖川(桂川の支川)流域)



浸透側溝のイメージ

2. 多様な生物の生息・生育場の再生

■ 藻場・干潟等の浅海域の創出

【平成18年度の主な取り組み】

- 藻場造成(平成18年度までに3箇所造成)
- 干潟、砂浜等の浅海域整備＜継続＞



造成藻場(阪南市地先)



堺泉北港堺第2区人工干潟(造成中)

3. 親水性の向上

臨海部における親水緑地整備

【平成18年度の主な取り組み】

- 臨海部緑地の造成<継続>



共生の森(堺第7-3区) 市民ボランティアによる植樹

親水活動の実施

【平成18年度の主な取り組み】

- 「なぎさ海道」ウォーク、「阪神なぎさ回廊ウォーク」
<継続>



「なぎさ海道」ウォーク

阪神なぎさ回廊ウォーク

4. 浮遊・漂着・海底ごみの削減



■河川清掃活動

【平成18年度の主な取り組み】

- 「3000万人瀬戸内海クリーン大作戦」「淀川わんどクリーン大作戦」「環境美化推進の日」「大和川クリーンアップデー」等と連携した河川清掃<継続>



大和川クリーンデー

河川清掃活動の様子

環境美化推進の日(猪名川)

■ごみ回収(漂着、浮遊、海底ごみ)

【平成18年度の主な取り組み】

- 「大阪湾クリーン作戦」、「リフレッシュ瀬戸内」の実施、海洋環境整備船によるごみ回収<継続>
- 底びき漁船による海底ごみ除去<継続>



須磨海岸(神戸)

ボランティアドライバーによる海底ごみ回収風景(大阪港)

大阪湾クリーン作戦



ビニールごみ等が漁具の爪や網にかかっている

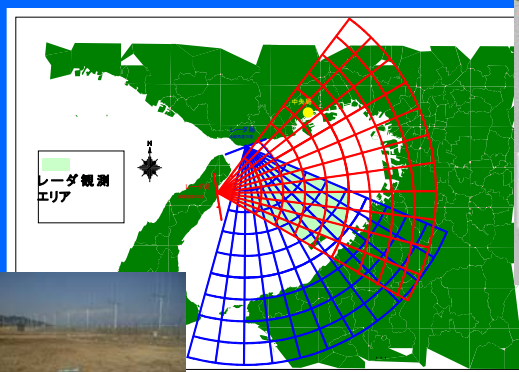
海底ごみ回収状況

■浮遊ごみ流出機構の把握

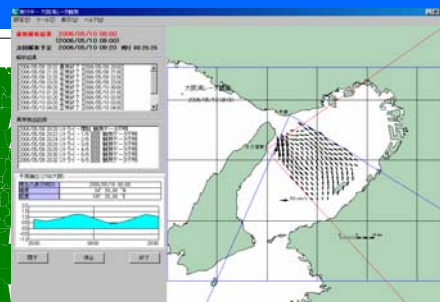
【平成18年度の主な取り組み】

- 海洋短波レーダ(DBFレーダ)による海面表層流観測

< 継続 >



レーダ観測範囲



流況解析データ

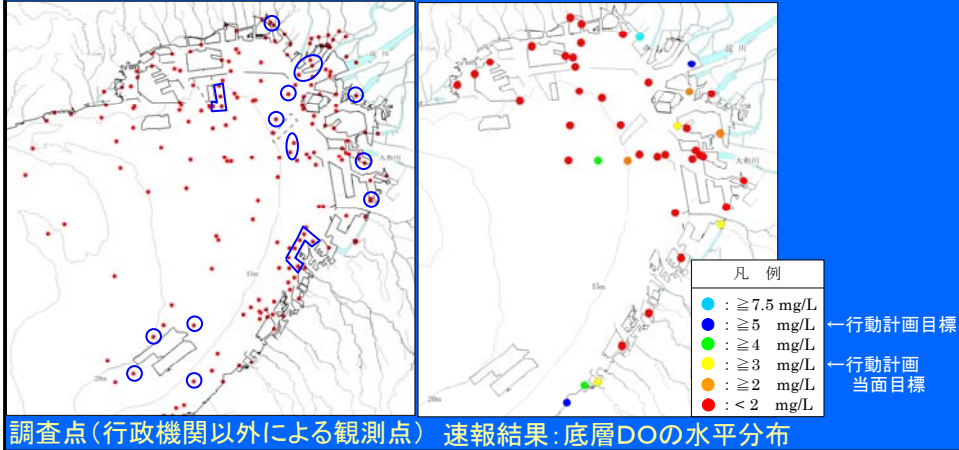
5. 大阪湾再生のためのモニタリング



■効果的・効率的なモニタリングの実施

【平成18年度の主な取り組み】

- 国、沿岸府県と臨海部の事業者・企業等との連携による「大阪湾再生水質一斉調査」<継続>

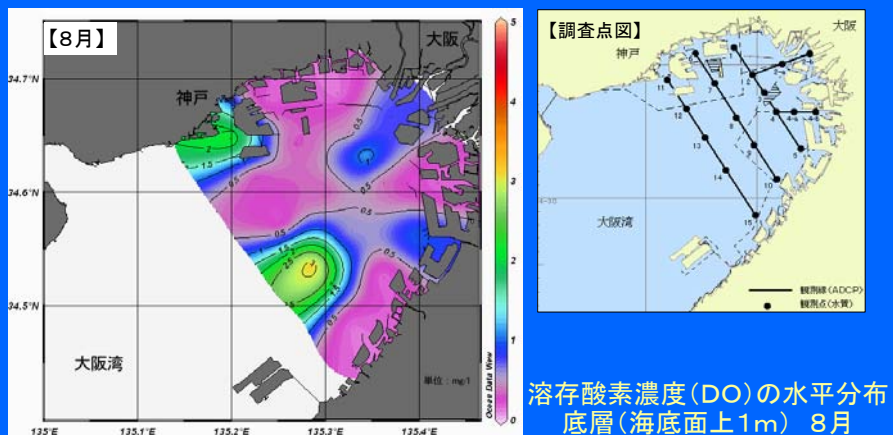


■モニタリングの内容の充実化



【平成18年度の主な取り組み】

- 「大阪湾環境保全調査」における溶存酸素濃度(DO)測定を追加、調査結果の公開<継続>



■大阪湾環境データベース

【平成18年度の主な取り組み】

- 大阪湾再生のためのモニタリング実施状況の集約・公開<継続>



■公開サイト:大阪湾環境データベース
~大阪湾環境情報クリアリングハウス~

<http://kouwan.pa.kkr.mlit.go.jp/kankyo-db/>

■モニタリング地点図



■メタデータ(調査概要)



■目標の達成状況

(1)海域生物の生息に重要な場を再生する

項目	目標	整備完了	
干潟	13 ha	0 ha	【整備中】
藻場	24.6 ha	12.6 ha	【整備中】
浅場	2.4 ha	2.4 ha	【完了】
砂浜	0.5 km	0 km	【整備中】

(2)人々が触れ合える場を再生する

項目	目標	整備完了	
自然的な海岸線延長	6.6 km	1.5 km	【整備中】

(3)臨海部での人々の憩いの場を確保する

項目	目標	現在	
臨海緑地	240.2 ha	18.5 ha	【整備中】

■ 目標の達成状況

(4)ごみのない美しい海岸線・海域を確保する

(単位:t)

【行政による取り組み】

項目	平成16年度	平成17年度	平成18年度
浮遊ごみ	1,014	213	725
漂着ごみ	50	48	—
海底ごみ	431	441	20
河川ごみ	—	110	195
計	1,495	812	925

【市民参画による

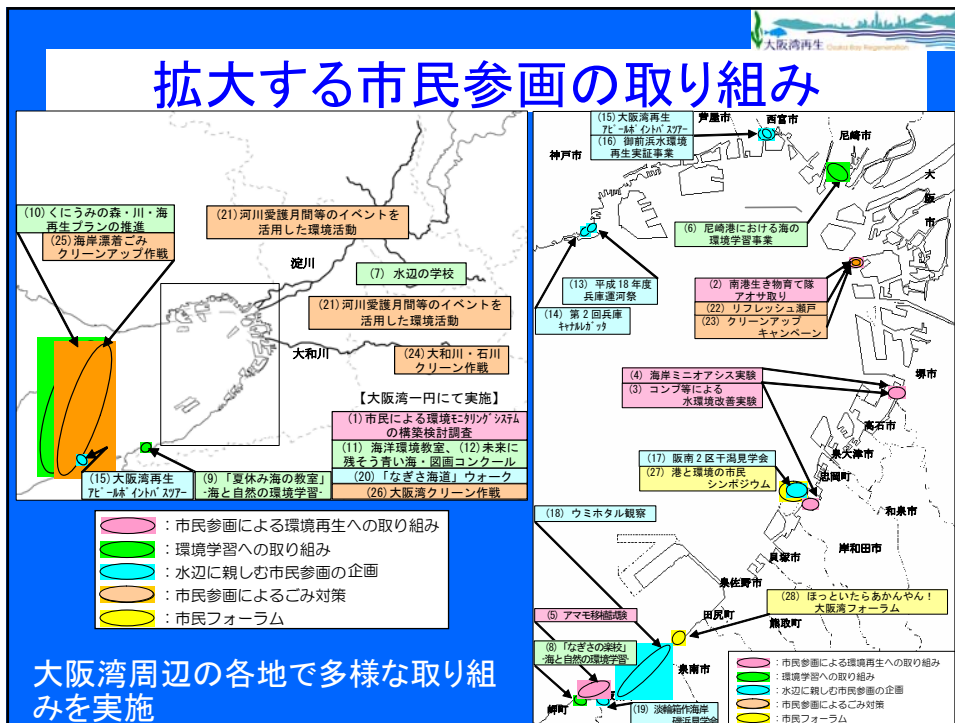
取り組み】

(単位:t)

項目	平成16年度	平成17年度	平成18年度
漂着ごみ	11	76	42
河川ごみ	37	26	39
不明	882	728	857
計	930	830	938

平成18年度の取り組み事例

②市民参画による 環境再生への取り組みについて



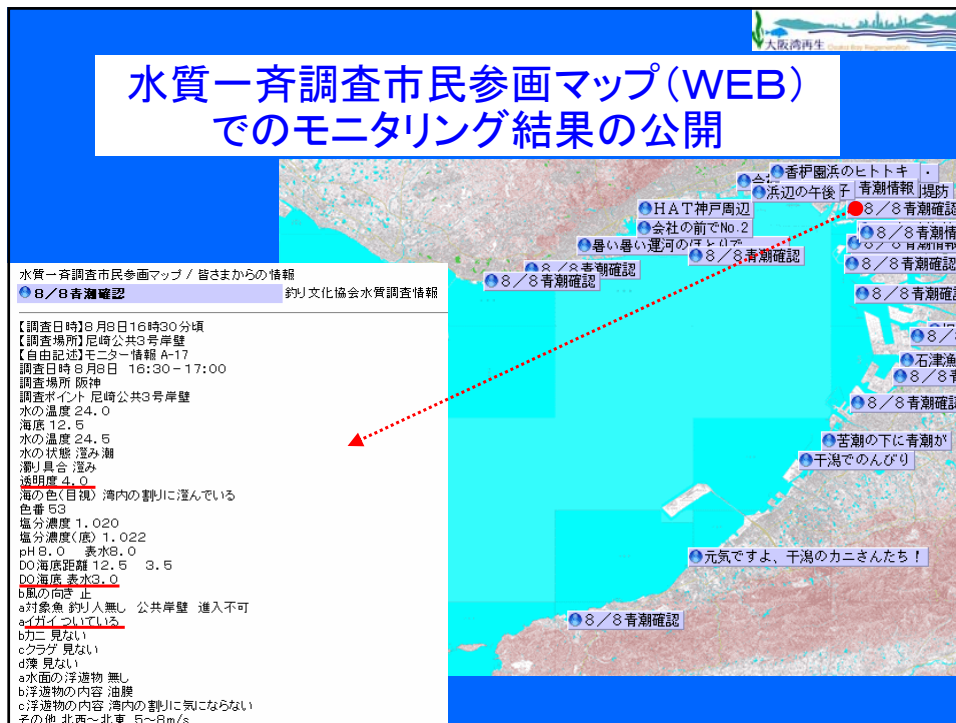
■ 市民による環境モニタリングシステムの構築 検討調査(全国都市再生モデル調査)

● 釣りという市民に親しみのある視点での環境モニタリングに多くの市民が参加することで、大阪湾再生に向けた意識高揚を図るとともに、環境モニタリング結果をより早く、より身近なものとして多くの市民に情報発信する体制を構築

水質一斉調査時の様子(8月)

調査キット講習会

調査キット



大阪湾見学バスツアー

●大阪湾の集水域の住民を対象に、大阪湾再生行動計画で設定されたアピールポイントを見学し、各種の取り組みに接することにより、大阪湾に対する住民の意識向上と環境にやさしいライフスタイルの変革を図る

実験用の浅場

水深1/25
水深10m以下
水深1/15
水深5m以下

御前浜(実証実験用の浅場の見学)

成ヶ島(ごみ回収)

■積極的な情報発信

- 大阪湾再生の取り組みについて積極的な情報発信を行うため、web上で「大阪湾再生ニュース」を公開（平成18年12月15日）

大阪湾再生ニュース
ぼちぼちいごか
人と海の関わりの再生をめざして……
楽しみながら取り組む大阪湾再生の現場を伝える

Web Site
2006.12.15
スタート

<http://www.kkr.mlit.go.jp/plan/suishin/boti2/>

vol.1では・・・

市民による取り組み
行政による取り組み

ダイバーの特技生かして「地球にいいこと」を
NPO 法人 CAN 理事 松本 貴美枝さん

～海とCANと僕～「海の感動」を伝えたい！
行政による取り組み

【発行のごあいさつ】より(抜粋)
沿岸各地での市民グループなどによる「主体的に楽しみながら」海の環境再生に取り組む活動が行われている中、様々な活動現場の様子や関わっている人々の生の声を紹介し、大阪湾再生の動きをお伝えします。



市民参加の取り組みを中心としたマスコミ報道状況

- 行政と市民・NPOなどとの協働の取り組みが注目され、以下のとおり、テレビ・新聞とも継続的に取材を受けている。

【テレビ放映等の状況】

- ・平成18年4月～平成19年1月までの約1年間の大阪湾再生関係のテレビ等による報道については、テレビ放映3件、ラジオ放送2件の計5件。

【新聞、雑誌等】

- ・新聞等の報道については、産経新聞2件、読売新聞3件、毎日新聞2件、朝日新聞2件、朝日小学生新聞1件、大阪日日新聞2件、神戸新聞3件、日刊建設工業新聞5件、日本海事新聞6件、日刊海事通信2件、マリタイムデーリーニュース1件、みなと新聞1件、釣具新聞1件、「瀬戸内海」(雑誌)3件の計34件と多数に亘る。

新聞記事 「大和川の河口に天然？アユ仔魚」



水質ワースト上位 汚名返上
大和川の河口に天然？アユ仔魚



大和川で確認されたアユの仔魚（大和川河川事務所提供）

大和川の河口付近に確認されたアユの仔魚は、約4匹いると推定している。これまでも大和川でアユが産卵していることが確認されているが、詳しい調査はされておらず、今回仔魚が確認されたことで、裏付けができた。大阪府立自然博物館の波戸岡清隆学芸員（魚類分類学）は「実際に大和川で産卵しているのは確実である。天然アユの可能性も高い」と話している。同事務所では、今後も水質向上に向け取り組みを行い、「アユが100万匹の産卵量」を目標として、環境を改善したいと話している。

大阪湾でとれるアユの産卵期は、7月下旬から10月上旬にかけてで、大阪府立自然博物館の波戸岡清隆学芸員（魚類分類学）は「実際に大和川で産卵しているのは確実である。天然アユの可能性も高い」と話している。同事務所では、今後も水質向上に向け取り組みを行い、「アユが100万匹の産卵量」を目標として、環境を改善したいと話している。

大和川の河口付近に確認されたアユの仔魚は、約4匹いると推定している。これまでも大和川でアユが産卵していることが確認されているが、詳しい調査はされておらず、今回仔魚が確認されたことで、裏付けができた。大阪府立自然博物館の波戸岡清隆学芸員（魚類分類学）は「実際に大和川で産卵しているのは確実である。天然アユの可能性も高い」と話している。同事務所では、今後も水質向上に向け取り組みを行い、「アユが100万匹の産卵量」を目標として、環境を改善したいと話している。

産経新聞 平成18年12月28日(木)

新聞記事 「チリメンジャコ素材に自然環境の大切さ学ぶ」



チリメンジャコ素材に自然環境の大切さ学ぶ

大阪府池田市で、チリメンジャコ素材を使った自然環境の大切さを学ぶ活動が行われた。

大阪府立自然博物館の波戸岡清隆学芸員（魚類分類学）は「実際に大和川で産卵しているのは確実である。天然アユの可能性も高い」と話している。同事務所では、今後も水質向上に向け取り組みを行い、「アユが100万匹の産卵量」を目標として、環境を改善したいと話している。

大阪府池田市のチリメンジャコ素材を使った自然環境の大切さを学ぶ活動の様子。

大阪府立自然博物館の波戸岡清隆学芸員（魚類分類学）は「実際に大和川で産卵しているのは確実である。天然アユの可能性も高い」と話している。同事務所では、今後も水質向上に向け取り組みを行い、「アユが100万匹の産卵量」を目標として、環境を改善したいと話している。

大阪府立自然博物館の波戸岡清隆学芸員（魚類分類学）は「実際に大和川で産卵しているのは確実である。天然アユの可能性も高い」と話している。同事務所では、今後も水質向上に向け取り組みを行い、「アユが100万匹の産卵量」を目標として、環境を改善したいと話している。

朝日小学生新聞 平成18年12月13日(水)